

9月定例報告

市長総括説明から

9月3日、平成22年第3回市議会定例会が開会しました。はじめに、新「豊岡市」スタート時の市長職務執行者・清水 豊さん追悼の言葉を述べた後、当面する市政の課題ならびに提出議案の主なものについて、説明しました。

安全に安心して暮らせるまち

○**円山川緊急治水対策事業**
国により、豊岡排水機場は12月、KTR円山川橋梁、八代排水機場、鳥居橋の架け替えなどについては、来年3月の完成を目指して鋭意進められています。

○**職員の防災研修**
平成16年の台風23号以降、市では防災監の配置、防災課の設置、総合支所の災害時における対策要員の確保、職員参集体制の整備など、市の

防災体制の強化を行ってきましたが、昨年の台風9号では十分機能しませんでした。このため、職員の災害対応能力の向上を目指す研修を年間7回程度行う予定です。研修は、国との共同企画で、特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構の協力を受け、講師は「防災ワンポイント」の出演者でもある防災に関する日本の第一人者を依頼しています。

国・県・市職員のほか、内容により区長、消防団員も受講いただきます。

○**(仮称)防災公園用地の取得**
宗団法人神道親導教の用地は、現在、移転先について法人で最終段階の調整がなされており、移転先確定後に詰めを行い、協議が整い次第、予算案を提出したいと考えています。

ICT活用広域連携

ICT(情報通信技術)を活用して公共分野における事業を他の市町と連携して実施し、公共サービスの向上とICT利活用の促進を図ることを目的とした、国の委託事業です。

市では、健康づくりをICT利活用事業として取り組むため、岐阜市と連携して国に申請し、採択されました。今後、保健指導、介護予防、健康づくり事業などにおける参加者数の増加や医療費分析システムの開発などの課題解決を目指します。

豊岡市小児細菌性髄膜炎予防接種(ヒブワクチン接種) 支援事業

乳幼児に死亡や重篤な後遺症を残すことのある小児細菌性髄膜炎の予防にはワクチンの接種が効果的とされていますが、予防接種法に基づく定期の予防接種ではないため、全額自己負担となっています。

市では、県の制度を受けてワクチン接種費用の一部を助成することとし、10月から開始するとともに、今年4月以降の接種分も遡及適用します。接種対象は2歳未満ですが、今年度に限り3歳未満までを対象とします。

ドクターカーの導入

ドクターカーは事業主体を公立豊岡病院組合とし、必要経費は但馬各市町が負担します。当面、ドクターヘリの運

航時間帯にドクターヘリが運航できない場合の補完として運行します。運行開始は12月の予定です。

認知症高齢者グループホーム等に係る事業者指定方針

現在、認知症高齢者グループホームへの入所希望待機者が多くあり、今後さらに増加が見込まれるため、その対策が急務となっています。そこで、認知症高齢者グループホーム、地域密着型特定施設に関して、本市の介護保険事業計画定員数を超える一定数まで認めることとしました。

人と自然が共生するまち

国際かいき

市と県では、10月30日、31日に、「野生復帰がもたらすもの」(コウノトリが紡ぐいのち・地域・経済・文化)をテーマに「第4回コウノトリ未来・国際かいき」を開催します。

名古屋市中で開催される生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)終了直後に国際かいきを設定することで、COP10参加者の誘引を図り、国際的な議論の展開とともに、

豊岡を国内外に発信したいと考えています。

コウノトリ野生復帰を核とした本市のさまざまな取組みは、国内外から高い評価を受け、COP10関連事業の「生物多様性国際自治体会議」やCOP10本会議のサイドイベントで発表することになっていきます。

持続可能な「力」を高めるまち

山陰海岸ジオパークの推進

8月1日から4日にかけて、世界ジオパークネットワーク委員による現地視察があり、10月3日にギリシャで予定されている世界ジオパークネットワークの会合で登録の可否が決定される予定です。

ゆかたクレジット事業

バーコード、ICカード、おサイフケータイを利用して買い物、外湯の入浴、音声ガイドンスを行うものです。今回、全国初の試みとして、外湯券デジタル化と音声ガイドンスが実施されることになりました。

市では、観光の活性化に寄与するため、事業の初期整備の一部を補助します。

○「コウノトリ育むお米」の

販売促進

コウノトリ育むお米の認知度は全国的には低いため、城崎温泉の旅館でコウノトリ育むお米のご飯を提供することとし、割高になる差額を市とJAたじまが補てんします。

来年4月の実施予定ですが、今秋から旅行社などへPRし、売り込んでいきます。

○有害鳥獣駆除対策

県では、シカの個体数を減少させるため、捕獲頭数を今年度からさらに増やし、新たにシカ緊急捕獲拡大事業に取り組み方針です。

市も、市内の猟友会支部登録会員が捕獲したシカについて、11頭目から1頭につき5、500円の報償費を支払う制度を創設したいと考えています。

○企業誘致の状況

市は、4月に企業誘致課を設置し、鋭意取り組んでいますが、7月に、食品卸業の企業みなたの三方東部工業団地B区画への立地について覚書を締結しました。

○日高地区地区構想

都市計画マスタープランの地区構想を策定することとし、

本市最初のモデルとして日高地区地区構想の策定を進め、12月完成を目指しています。

○国道482号鶴岡道路

県により、鶴岡橋の橋梁下部工事が発注され、新橋梁は平成26年度供用開始の見込みです。

なお、新橋梁は、現在より約180メートル下流に架け替えられます。

○コウノトリ但馬空港からの

東京直行便

全日本空輸に対し「地域主体の新規路線開設枠」を利用したが、前向きな回答は得られず、募集期限の先月末までに応募することができませんでした。

しかし、他の空港からも小型機枠の使用申出はなく、募集は継続されますので、航空輸送による利益以外にも但馬へ飛ぶことの意義やメリットをさらに訴え、引き続き路線開設を強く要請していきます。

○地域主体の公共交通支援

パイロット事業

乗合型公共交通では対応できない需要の少ない地域での移動手段の確保のために、地

域が主体的に取り進む場合、市が車両の無償貸与などの間接的支援をする制度を創設することとし、今年度は試験的に事業を実施します。

この事業に、出石の奥山・和屋・榎見区が取り組むことになりました。また、他地域から事業導入の申出があれば、奥山区などでの実証結果を踏まえて対応していきます。

■未来を拓く人を育むまち

認定こども園の開設に

向けた取組み

昨年10月に策定した「豊岡市における幼稚園・保育所のあり方計画」に基づき、但東および城崎地域において、認定こども園の開設に向けた取組みを進めています。

来々年4月から、但東地域では資母、合橋、高橋の三つの公立認定こども園が、城崎地域では「社会福祉法人城崎保育園」により私立認定こども園が開設されます。

■市政の運営

情報発信イベントの開催

7月、第2回目となる「豊岡エキシビジョン2010」を東京で開催し、マスコミ関係をはじめ、旅行会社などが

ら199人の参加を得ました。9月中旬には、エキシビジョン参加者による豊岡でのエクスカーション（小旅行）を予定しています。

○「豊岡市男女共同参画

プラン」の改定

男女共同参画社会の実現を目指し、平成18年に豊岡市男女共同参画プランを策定しましたが、計画期間が来年度までであり、引き続き取り組むため、今年度と来年度で同プランを改定します。

○新庁舎建設事業

現在、実施設計業務を進めており、建設工事については12月までに入札の手続きを進め、今年度内に工事着手をしたいと考えています。

また、仮庁舎移転は、8月下旬にコウノトリ共生部、都市整備部、教育委員会、農業委員会事務局が城南町仮庁舎へ、生活環境課が北庁舎へ、新庁舎建設室が南庁舎別館へ移転しました。その他の残った部署は、南庁舎、北庁舎および東庁舎別館などの改修工事完了後の12月末に移転する予定です。

○城南町仮庁舎への移転に

伴うe通勤プロジェクト推進のための時差出勤制度の

試行

城南町仮庁舎への移転により、現行の公共交通運行ダイヤでは引続きe通勤をすることが困難となる職員が出ることから、現在の勤務体系に加え、前後30分の時差を設けた勤務体系を整備し、9月から当面1年間試行します。

○上下水道料金等の改訂

上下水道料金のあり方については、公営企業審議会から今月末には答申いただける予定です。

料金改定は、市民の皆様や使用者の方々に十分な周知・説明を行った上で、来々年4月からの適用を考えています。

○コストを意識した行動指針

策定

現在、庁内にコストを意識した行動指針策定検討委員会を組織し、検討中です。

指針には、コストに関する全職員に関わる取組みと部ごとに取り組む項目を掲げ、さらには実行のための方策や実効性の確保についても記載することとし、策定期を11月に変更しました。